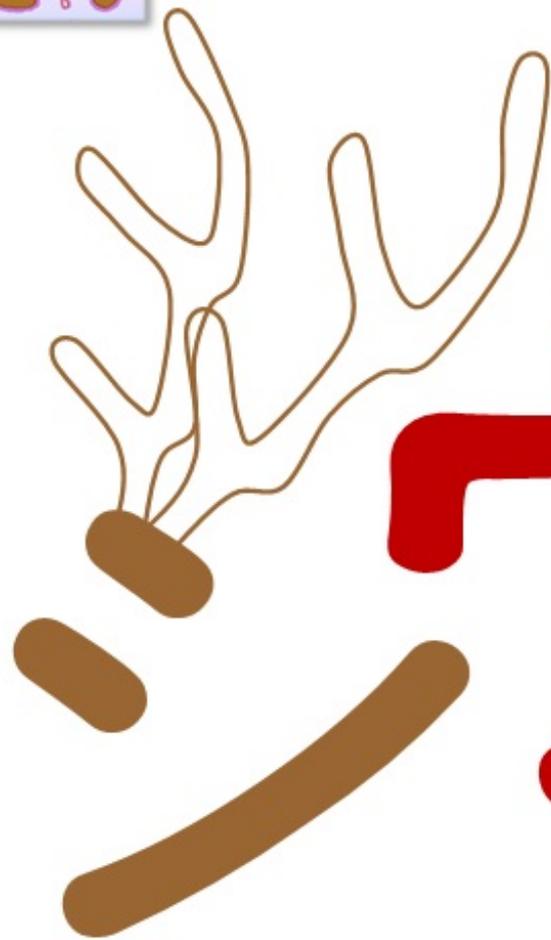




第四十五回 『雑の名は●2』と

ロケットパンチ

考え



カ

る

弦楽器イルカ ⇔ 友人



第四十五回 『雑の名は●2』とロケットパンチ～UからGへ～

まずは、『君の名は。』の感想を読ませてもらった。

ジョークも冴えてるね。読み応えあったよ。

僕は『君の名は。』は好きなところと嫌いなところがあって、好きなところは、現代の日本の美しさを表現しているところ。

伝統残る田舎と近未来都市のような東京との対比が美しいと思った。自分は国際線の小さな機内ディスプレイで見たけど、単純に隕石が落ちるシーンなんか、とても綺麗だと感じたよ。

映画館で観たかった、せめて自宅で観たかったって思った。

嫌いなところは、3年もずれた時間に放り込まれて、それに気が付かないはずがないというところだね。

他にもいろいろおかしなところもあるよね。

そういうのが気になって、没入感が失われるんだよね。

そういうテクニカルな問題をパズルのようにすべて解決してから、没入感たっぷりで『君の名は。part2』が観れたらいいな。

とても素晴らしいことじゃないかな。期待しているよ。

自分で書いておきながら、なんとまあ、ごく普通の感想なんだろうと逆に興味してしまった。『君の名は。』はもっとも惜しい映画として名を残した。

だから、ファミコンで例えるなら、あの伝説の「たけしの挑戦状」みたいなもんじゃないかな。

どうでもいいけど、個人的には「たけしの挑戦状」を上手にリメイクしたのが、「グランセフトオートシリーズ」だと思う。

子供のころは「たけしの挑戦状」が大好きで夢中で何度もプレイしたけどね。

人工知能のイヴァダムの話、とてもいいね！

これは最高傑作なんじゃないかな。

もっとオースティンの『1984』みたいなリアリティがあると面白いけど、これを骨格にして、想像力で味付けをすればよいのではないかと思う。

簡単に言うなよと言われてしまうかもしれないけど。

自分が思っている人工知能観と一致しているよ。

それとは別に、イヴァダムの設定について、ちょっとあっさりしているから、発展させることはできないかな？

たとえば、イヴァダムは本当は単なる人間で、それも人間らしい人間だったけれども、人間の嫌な部分に嫌気がさして、ゆがんだ理想を目指すようになったとか。

もし、イヴァダム＝人工知能が支配する世界のイヴ、が、人間社会から作られたものだとし

たら、絶対どこかに、人間らしさが入り込む隙間があって、その人間らしさの隙間から、人間主義が広まって、結局は人工知能による理想社会は崩壊させるチャンスがあったりとか。

イヴがヘビに騙されてリンゴを食べたことから人類が生じ、そこで得た理性を、あまりに理性的なコンピューターが排除してしまったというのはとても皮肉なことだね。

イヴァダムの完ぺきな論理は、共産主義の完ぺきな論理と同じで、それ自体は論破不可能だと思う。

でも、結局は人間は人間らしさを愛するようになっていくし、それがゆえに、「完ぺきな論理」は常に負ける運命にあるのだと思う。

というか、そういうふうになってほしいと思う。

それにしても人工知能がつくる、最大幸福の世界、完璧すぎて恐ろしいな。

なんとか反逆のチャンスはないのだろうか？って考えてしまうよね。

物語として、明確に表現しきったのはすごいよ！

続編と、よりリアルな詳細編を期待しています。





今回は、「世界の肯定」「人工知能」「笑い」「雑の名は●2」を「多様性」という線をつなぎます。鉄骨渡りくらい無茶だから、落ちないように気を付けてね。

まず、『マジンガーZ』の映画、期待通りのマジンガーっぷりがよかった。『エヴァ』とか『シン・ゴジラ』の影響もありそうな気がしたけど、あと『マクロス映画版』の「これより貴艦を援護する」ってセリフをちょっとオマージュしてるとか思ったけど、とにかくマジンガーマジンガーしててよかった。あと永井豪のデザインは人間の生理に訴える迫力があると思う。『デビルマン』の新作も観たい。

でもそう言いながら俺、全然マジンガー知らなかった。観ながら途中でこれ何ジンガーの映画だっけって、後で調べたけど、ゴッド、グレート、カイザー、Z、グレン、いろいろいるんだよね、親戚が。あとマジンガーってしゃべんない方のロボなんだね。そこもちょっと勘違いしてた。

あと4DXはお祭りだね。爆発したらシートの肩モミ玉がブブブって作動して、耳元にシュシュって強い風来て、煙でスクリーン観えなくなるって、リアルとは全く別のアトラクションだった。ファミコン用コントローラー「パワーグローブ」に近い、間違った進化の臭いもする。だって映画観てる時足元にネズミいるんじゃないかって気になるの、変じゃない？

んで一つだけ、「多様性のあるこの世界を肯定できるか」って、すべての作品が避けて通れないテーマについて書きたい。俺も昔「否定で肯定する新しい皇帝」って書いたけど。結局この世界で諦めながら生きていく以上は、「この世界を肯定する」しかできないから、その予定調和を超えてどう答えを出すのか、作品を作る上で重要なポイントだと思う。

俺ならどう書くのか、考えてた。

「一つにまとまらないこの世界を、お前は肯定できるのか？」

「...仕方ねえだろ。この世界がクソツタレなのは百も承知だが、クソツタレが一つもない世界なんて逆におかしいからさ。だったら戦って死ぬよ。他の世界に逃げ込むんじゃなくて、今ここで、俺の戦場で。できればみんなで、力を合わせてさ。それが俺なりの肯定だ」

このセリフが今回の文章を貫くロケットパンチなので、覚えておいてください。



『人工知能の夢』は、もう少し書いてみるよ。ありがとう。

俺が何を書こうとしてるかについて、Uには先に少し言及しておくね。

まず、登場人物の名前だけど、アダム+イヴ、イヴ+アダムにした。

つまり、新しい生命体は男と女を必要としないって意味もあるし、そもそも二人は同一人物かもしれないって意味でもある。

すべては『人工知能の夢』であり、この小説自体、人工知能が書いたのかもしれない。

あとUの指摘で言うなら、理性っていうのは俺のイメージでは「知性+自制心」だね。

人類は理性において他の野生動物より勝っていたから、個体の数を増やせたんでしょう。今も、野生動物を支配はしてないけど、コントロールはしてる。

それならばもし、人工知能の理性が人類を上回るのならば、人工知能が人類をコントロールし、管理するのは必然だと思う。

それが悪だと俺は思ってない。必然だと思うって話を書いたよ。

ただね、そういう意味では人工知能にも弱点はあるんじゃないかな。

人間主義につながるかもしれないんだけど、地球上の多くの生物は、死から逃れようとする。人類も死を恐れる。でも人工知能は命令の実行が第一で、死を恐れるようにはできてない。なぜなら人工知能は、後世に情報を残す必要がないから。その分、生命力が弱い。

遺伝子を乗せられた多くの生物は、後世に情報を残すよう呪いがかけられているから、死を恐れ、生に固執する。窮鼠猫を噛む。更に様々な多様性を生むことにより、生き延びる可能性を拡げる。

それがつまり、いわゆるゴーストを持っているか持っていないか、昭和の概念を借りれば「火事場のクソ力」があるかないかの差だと思う。生物の本能は人工知能にプログラミングできないんじゃないかな。

だから今のところ人工知能にゴーストが入る可能性は低いと思うんだけど、目的があり、思考があり、実行があれば、虫と一緒にいる存在だから、虫だって生きてて友達である以上、人工知能も準生命だと俺は思う。そのうち人工知能にも窮鼠システムが搭載されたり、多様性が生まれるかもしれないね。



次は笑いについて総括したいんだけど。前からずっと言ってるヤツね。

笑いは構図のズレにより起こるんだけど、単にズレているだけじゃ、荒唐無稽で笑えないよね。ズレている部分と、ズレていない部分があるから、笑いが起こる。

そしてそのズレは、縦軸が「数量」、横軸が「位置」で図式化できる。

たとえば時節柄、鏡餅の上にミカンが乗っていたとする。

もしそのミカンが俺の頭の上に乗っていたらどうだろう。今俺がこの文章を、頭の上にミカン乗せて書いていたとしたらどうだろう。どうだろうってミカン乗せて堂々と書いている俺、バカバカしいだろう。

鏡餅の上から、頭の上にミカンの「位置」がズレてる。でも、「乗っている」という部分はズ

していない。

あるいは、鏡餅の上にミカンが10個乗っていたらどうだろう。俺が今、ミカンが10個鏡餅に乗せながらこの文章を書いているとしたら、どうしたいんだろう、俺は、鏡餅を。

鏡餅の上にあったミカンの、「数量」が増えている。でも、「乗っている」という部分はズレてない。

つまり笑いとは、「ズレているけど、ズレてない」という構図のズレによって起こる。漫才のツッコミは、「どこがズレている、どこがズレていないか」を解説するための言葉だ。

更にそのズレは大きく分けて二つ、「数量」と「位置」で図式化できる。

ベタな笑いは主に「数量」をズラしている。シュールな笑いは主に「位置」をズラしている。

ミカンには、「柑橘系の果物」「橙色」「丸い」など様々な要素がある。それらの要素を分解すると、例えば「丸い」なら、「四角」「三角」など主に「位置」の方向性にズラす笑い、「より大きい丸」「より小さい丸」など主に「数量」の方向性にズラす笑いがある。

ただしこの「位置」と「数量」の感覚は一人一人違うから、人によって笑いに好みが出る。同じネタでも、「位置」がズレていると感じる人がいれば、「数量」がズレていると感じる人もいるし、そもそもズレてないと感じる人だっている。これが多様性だね。

どの要素を何個ズラし、何個ズラさないのか。よりたくさんの要素をズラしつつも、よりたくさんの要素をズラさないネタが、より大きな笑いを生む可能性がある。

例えば、鏡餅の上に、ミカンを頭の上に乘せた藤岡弘、が乗っていたらどうだろう。え、ミカンだよね本来乗ってるのは、ええと、ミカンだから、みかん、あ、未完だから！ミカンだけに未完だから、藤岡弘、は。頭の上にミカン乗ってる、点でダメな未完男だから！

例えば、鏡餅の上にミカンが10個、さらにもう一個を弘、が乗せようとしていたらどうだろう。うん、未完だから、もう一個ミカン乗せるよね。未完な弘、だから、強い眼力で美味しくな～れってミカン何個でも乗っけてくるよそりゃ、時節柄だし！



最後に、Uに言われて『雑の名は●2』について少し考えたら、ちょっとした気づきがあったって話で締めるよ。

「変電所を爆破して、町内放送で避難を促す」って、一高校生の計画にしては破壊の規模がデカイ。しかも「町長を説得する」って最も重要なミッションがノープランで、実際一度失敗する。

普通は、説得力のあるプランを立案して観客を納得させてから、実行する過程でハラハラドキドキさせるのが、シナリオの王道だ。

正直、あんなに穴の多いプランに感情移入できるのは、穴の多い観客だけだと思う。

ではなぜ、あんなシナリオにしたのか、読解するよ。

俺が考えたシナリオは、

- ① 爆弾を何力所かで爆発させる。
- ② 「お祭り会場にも爆弾を仕掛けた」と爆破予告する。
- ③ 町長がお祭りを中止して避難勧告を出す。

これなら破綻が少ないし、観客も感情移入しやすい。

あとは映画を盛り上げるために、「爆弾の設置に手間取る」とか、「爆破予告がうまくできない」といったストーリーを追加すればいい。

でもここまで考えて気づいた。製作委員会方式で、この程度のシナリオを思いつかないはずがない。だからわざと除外したんだよ。どうしてか。その理由を俺なりに3つ考えた。

- ① どうしても町長である父親を説得する場面がほしい。
- ② どうやったら人命救助できるかを、観客にもわからないようにしたい。きっちりしたわかりやすいプランを組むと、ストーリーが小さくまとまってしまうから。
- ③ 主人公をギリギリまで右往左往させて、盛り上がる演出にしたい。

だが最終的に、肝心の父親を説得する場面と、重要な避難訓練の場面は全カットだった。なぜか。

シナリオが強引すぎて、観客を納得させるだけのオチがつかなかったんだろう。更に、地味だから。

そもそも映画を盛り上げたいなら、「避難」をクライマックスに持ってきた時点でかなり厳しい。ここは委員会が気づくべきだった。

例えば、クライマックスが「落雷」。おー、音もデカイ、迫力ある。

例えば、クライマックスが「隕石の爆破」。おー、命懸け、迫力ある。

例えば、クライマックスが「避難訓練」。あ、みんな逃げろ、危ないぞー。一列になって、押さないでよ。ちびっこはお母さんと手を握ってね。ふー、みんな無事だ、よかったよかった。

ペチン！

「避難訓練」だけ日常の一コマだな！ なげえし！

そりゃそうだろう。だから避難の場面は全カットなんだけどさ。変電所を爆破する場面をクライマックスに持ってこれないシナリオなら、隕石の選択はミスだったと俺は思うけど、トイ神層にとっちゃそれが正解だよ。これも多様性だよ。

さて、今回はこんな感じ。

どうかな？





福島の子供たちの甲状腺の話、過剰診断って流れで落ち着かせようとしてるけど、それなら手術した子供たちにどれだけ賠償するかを決めなくちゃいけないけど、その議論が盛り上がっているとは思えない。

しかも複数の子供たちに転移や再発があるって事実も報道されず、「甲状腺がんになった人がいることをもう少し知ってほしい」って本人らの意見も取り上げられない。

手術した子供たち全員に向かって、「君たちのがんは絶対に原発由来じゃない。過剰診断だから絶対に切る必要はなかった」と断言できる医者はいない。

たとえ全体の可能性を論じることはできたとしても、もう200名近い子供たちそれぞれが違う背景を持って生きている以上、転移や再発もある彼ら一人一人に対して、原発由来でがんが進行した可能性を100%は否定できないからだ。

Uに昔言ったけど、右派と左派でケンカするのと、巨人阪神戦で揉めるファンに、大差はないんだよ。ケンカしたいからしてるだけだ。論戦は論戦自体が生きがいになるし、商売になる。そこには正義も悪もないよ。あるのは暇つぶしだけだ。

自分の手がどんだけ汚れてるのかって、自覚することが文化に出来るすべてだよ。文化には気づきの力しかない。

それでももし変革が起きるとしたら、やっぱり自覚からしかないんだよ。「お前ら改めろ」って上からの説教じゃなくて、ただ己が誰かを知らしめる小さな力だけが、世の中を変革させる可能性がある。

この国の電気は、福島の200人近い子供たちの甲状腺をえぐり出すことで出来てる。その事実を自覚しないまま、暇つぶしのニュースだけが延々流されてる。

俺らウマシカの手はそのくらいには汚れてるんだよ。

生物が遺伝子を残すためには多様性が必要である以上、この世界は一つにはまとまらない。ただ己を自覚する個が集まることで、お互いに歩み寄ることはできるのかもしれない。





考えるウマシカ～第四十五回 『雑の名は●2』とロケットパンチ～

<http://p.booklog.jp/book/119991>

著者：弦楽器イルカ+友人

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/119991>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト